

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24520137

研究課題名(和文) 絵画制作の下地にかかわる専門用語の、西洋における混乱した使用状況に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Chaotic Usage of Technical Terms related to Painting Foundation in the West

研究代表者

内藤 定壽 (NAITO, Sadatoshi)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：80261791

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：絵画における下地や地塗りに関する専門用語には、ある一つの内容に関して複数の用語が存在すると同時に、それら複数の用語についても様々な解釈が存在している。それはミスリーディング(誤解)の可能性を持っているということでもある。本研究では文献調査とバルセロナ大学、サラマンカ大学、フィレンツェ美術学校、ウィーン美術大学との研究交流から、専門用語(imprimitura)について、わが国で認識されている意味と、イタリアにおいて認識されている意味が大きく異なることを明らかにした。そしてその原因がわが国における画家、研究者の誤訳ではなく、西洋において既に変化し、混乱している可能性が高いことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：There are several terms relating to the ground of painting in the West, for example "Ground" "Fond" and "Preparation". Differences in meaning of these three terms do not cause problems. However, there is a term causing mislead, which is "imprimitura". Specifically, the meaning of "imprimitura" in Japan is significantly different from the meaning in Italy. This change of meaning was not caused by mistranslation of translator in Japan. In fact, the meaning of term had already changed in the West, for example in Germany. This research is based on literature survey and research exchanges with University of Barcelona, University of Salamanca, Accademia di Belle Arti di Firenze and Academy of Fine Arts Vienna.

研究分野：絵画技法

キーワード：絵画技法 専門用語 imprimitura ミスリーディング

1. 研究開始当初の背景

何かを伝える場合に、送り手と受け手が言葉の意味を異なって解釈していれば、正しい伝達はきわめて困難になる。今日、絵画技法に関する用語が、その状況にある。すなわち、あるひとつの内容に関して複数の用語が存在すると同時に、それらの用語それぞれについてもさまざまな解釈があり、複雑に絡み合っている状況である。

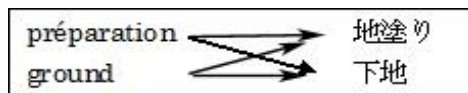
日本国内には、イタリア、フランス、ドイツ、イギリスなど、様々な国で展開していた専門用語が入り、それを先達たちが適切と判断した日本語に置き換えてきた。その結果、複数の国の意味の異なる専門用語が、日本語に訳される際に特定の用語に統一されたり、あるいは逆に、ひとつの原語に複数の訳語を与えられたりして、現在は非常に複雑な様相を呈している。

絵画技法の専門用語として、特に「下地」「地」「地塗り」の3つの用語に問題を感じた。これらは、キャンパスなどにおける塗料の部分にかかわる用語である。

これらに相当する西欧各国の専門用語は *préparation* (仏) Grund (独) *imprimitura* (伊) *fond* (仏) などである。これらが同一の意味を示すならば、問題はそれほど深刻ではない。しかし、西洋各国で培われた油彩画技法の奥は深く、意味の違いが存在する。例えば、*préparation* (仏) には準備や支度の意味があり、工房における弟子たちの職人的な作業が含まれているが、*ground* (英) には物理的な塗装面の意味合いが強い。

日本語の「地塗り」は動詞から転じた名詞であり、「塗る」という動作、「塗られたもの」を意味している単語である。一方「下地」には調整や下準備など準備全般を示す場合があり、*preparation* の翻訳として好都合である。

しかしこの二つの原語に限っても、下の表のように、日本語に訳される際にひとつの訳語に統一されたり、あるいは逆に、ひとつの原語に二つの訳語が与えられたりしていた。原語と訳語を結ぶ線が絡み合い、非常に複雑な様相を呈している。



そしてこの調査の過程で、日本語に訳す以前の西洋各国の原語の段階で、意味や使用状況が不安定である可能性があると考えた。これが着想に至った経緯である。

2. 研究の目的

右上の表の縦軸は、絵画の下地に関する起源を同じくする専門用語である。それぞれが各国に伝播し、混在している様子がうかがえる。一般的な辞書に用語があるかどうかを調べると、バロック期、ルネサンス期に絵画の中心地であったイタリア、スペイン、ドイツ

においてさえ、すなわちかつての専門用語発信の起点となっていたところでさえ、現在は少なくとも2種類の専門用語が混在していることがわかる。

英	(preparation)	ground	primer (imprimatura)
仏	préparation	記載なし	(imprimatura)
伊	preparazióni	記載なし	imprimitura
西	preparación	記載なし	Imprimación (imprimatur)
独	(Präparation)	Grund	imprimitur (imprimatura)

()は辞書等に単語が存在していても、専門用語としての意味が記載されていなかったもの。他に *fond* 等の専門用語が存在し、さらに複雑な様相を呈している

これらの起源を同じくする専門用語の意味について、第1期として混在が確認されているイタリア語圏、スペイン語圏、ドイツ語圏に絞り、下記の観点から調査することを目的とした。

(1) これらの専門用語が、文献上の記載にとどまらず、制作の現場で本当に混在する状況で使用されているのかを調査する。

(2) 起源を同じくする専門用語の意味の変化を明らかにする。特に各国への伝播により変化した意味について明らかにする。(空間的な広がりの中での変化)

3. 研究の方法

対象とする専門用語について文献調査及び実地調査を行った。

対象とする専門用語の意味と使用方法について、文献調査及び聞き取りによる実地調査を行った。本研究期間内の実施調査は基本的にイタリア語圏、スペイン語圏、ドイツ語圏とした。主な実地調査機関、研究者所属機関は表のとおりである。

西	Universidad de Barcelona
西	Universidad de Salamanca
伊	Accademia di Belle Arti di Firenze
伊	Biblioteca Nazionale Centrale di Roma
伊	Accademia d'Arte Firenze
奥	Akademie der bildenden Künste Wien

4. 研究成果

西洋では下地にかかわる専門用語として、Grund と同じ語源の類、Preparation の類、Imprimitura の類、Fond の類等が存在する。Grund の類、Preparation の類は、日本では地塗りあるいは下地のどちらかに自由に訳されているが、ミスリーディングというほどの混乱は発生していない。

技法書に記載されている画材については、日本人が想定している材料（日本で販売されているもの）と認識の違いがある可能性がある。例えばウサギ膠と書かれていても、西洋で販売されているものは板状のものからパウダー状のものまであり、写真のない文字媒体の技法書のマニュアルの解読に際して、ミスリーディングの可能性もある。ただ、実際に作品制作に応用し、実験しているが、特に大きな不具合は生じていない。このレベルのものについては、画家として基本的な素材に関する知識があれば対応可能と考えられる。

ミスリーディングの可能性が高いのは、専門用語 *Imprimitura*（インプリミトゥーラ）の解釈であった。この専門用語については、我が国で認識されている意味と、イタリアにおける意味が全く異なっていた。その原因について、研究当初は邦訳の際の誤訳であろうと考えていたが、研究を進めるにつれて、状況はさらに複雑かつ深刻であることが明らかになった。つまり、西洋でも絵画技法書等により、全く違う意味で使われている場合があるという衝撃的な事実が存在した。

このことにより、*Imprimitura* に関するミスリーディングは、単に西洋と日本の間の問題ではなく、西洋諸国間、研究者間においても存在しているということがあきらかになった。事実、前述した美術大学等における教授陣の認識も不統一であった。この事実の発見が本研究最大の成果である。

具体的には、ソルボンヌ大学と美術修復研究所（UNIVERSITE DE LA SORBONNE NOUVELLE - PARIS III en collaboration avec L'INSTITUT FRANCAIS DE RESTAURATION DES OEUVRES D'ART）公開の「CHRONIQUES ITALIENNES No 18-19」では、インプリミトゥーラは *Imprimitura*（伊）= *Imprimatura*（仏）= *Impression coloree* 等とされ、*Imprimitura* は色の印象付けとか刻印の意味となっている。*Imprimitura*（伊）と *Imprimatura*（仏）で、「i」と「a」が異なっているが、注目すべきは同じ意味とされていることである。ドイツ語圏でも技法書では同一とされ、この意味で用いられており、地塗りの上に薄く施すある種の機能を持った有色の塗布（層）を限定的に示す。しかし、イタリアにおいて *Imprimitura* は *Preparazioni* とほぼ同義で、地塗り全般を示す用語として存在しており、ソルボンヌ大学の美術用語仏伊対応表の示す意味と大きく異なっている（参照 GINO PIVA 著 *MANYUALE PRATICO DI TECNICA PITTORICA* 他）。つまり *Imprimitura*（伊）はプレパレーションであり、単純に「下地」ないし「地塗り」と訳すべきであると考えに至った。

スペインには *imprimir*（印刷する）と *imprimir*（地塗りをする、最初に塗る）が存在し、*imprimacion* が地塗り等最初に塗る塗料を意味する。*imprimir* と *imprimir*、「i」と「a」が異なる部分である。スペインの大

学の教授によれば、この二つは全く別の単語であるとのことであった。ここで注目すべき点は *imprimitura* と *imprimatura* は、源を同一とする単語の各言語間の発音の違いではなく、*imprimir* と *imprimir* のように、もともと別の単語であった可能性があるということである。しかし不思議な現象に突き当たっている。*Imprimitura* はイタリアでは地塗りを意味し、*Imprimatura* はフランスでは教会の印刷許可などを意味するので、「i」と「a」の関係がスペインでのそれらの関係と逆転しているのである。逆説的だが、このような現象に *Imprimitura*（伊）の誤訳の原因があると仮定しているが、現段階ではまだ証明には至っていない。

現段階では、専門用語の意味の違いの存在を現象的に捉えたに過ぎず、地域もイタリア語圏、スペイン語圏、ドイツ語圏に限定されている。しかし、ミスリーディングは極めて高い可能性で生じると考えられ、これまでの研究で明らかにした事実を基に、専門用語の使用に関して警鐘を鳴らす活動を開始している。絵画技法論、絵画制作論に学会は存在していないため、国立新美術館等の展覧会に付随する講演会やシンポジウム、ギャラリートーク等が重要な研究発表、研究交流の場と考えている。

今後はこれまで研究対象としたイタリア語圏、ドイツ語圏、スペイン語圏に加え、近現代絵画で重要なフランス語圏、英語圏を対象とした調査、研究を続け、さらに専門用語の意味が変化した原因についても解明したい。また、研究協力者 仏山輝美筑波大学教授は科学研究費「油彩画技法「ミッシュテクニク」の東アジアにおける継承と実践に関する調査研究」の研究代表者として、関連する研究を開始している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計12件）

美術館シンポジウム、ギャラリートーク等（2件）

内藤定壽、福満正志郎他14名：「美術は今、対峙する16の画面」トークセッション、東海ステーションギャラリー、2016年1月、茨城県那珂郡東海村

藪野健、内藤定壽：ギャラリートーク、国立新美術館二紀展会場、2016年10月、東京都港区

作品発表（10件）

内藤定壽、絵画作品「模写する人」、二紀展、国立新美術館、2012年10月、東京都港区

仏山輝美、絵画作品「Monster」、二紀展、国立新美術館、2012年10月、東京都港区

内藤定壽、絵画作品「運ぶ人」、二紀展、国立新美術館、2013年10月、東京都港区

仏山輝美、絵画作品「鶴の肖像」、二紀展、

国立新美術館、2013年10月、東京都港区

内藤定壽、絵画作品「画家の研究」、二紀展、国立新美術館、2014年10月、東京都港区

仏山輝美、絵画作品「暁闇」、二紀展、国立新美術館、2014年10月、東京都港区

内藤定壽、絵画作品「押してみる人」、二紀展、国立新美術館、2015年10月、東京都港区

仏山輝美、絵画作品「Great monster」、二紀展、国立新美術館、2015年10月、東京都港区

内藤定壽、絵画作品「模写する人-be dignified」、二紀展、国立新美術館、2016年10月、東京都港区

仏山輝美、絵画作品「summer cold」、二紀展、国立新美術館、2016年10月、東京都港区

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内藤定壽 (NAITO Sadatoshi)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：80261791

(2) 研究分担者

仏山 輝美 (HOTOKEYAMA Terumi)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：70315274

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

馬場 洋 (BABA Hiroshi)

加藤 寛史 (KATO Hirofumi)